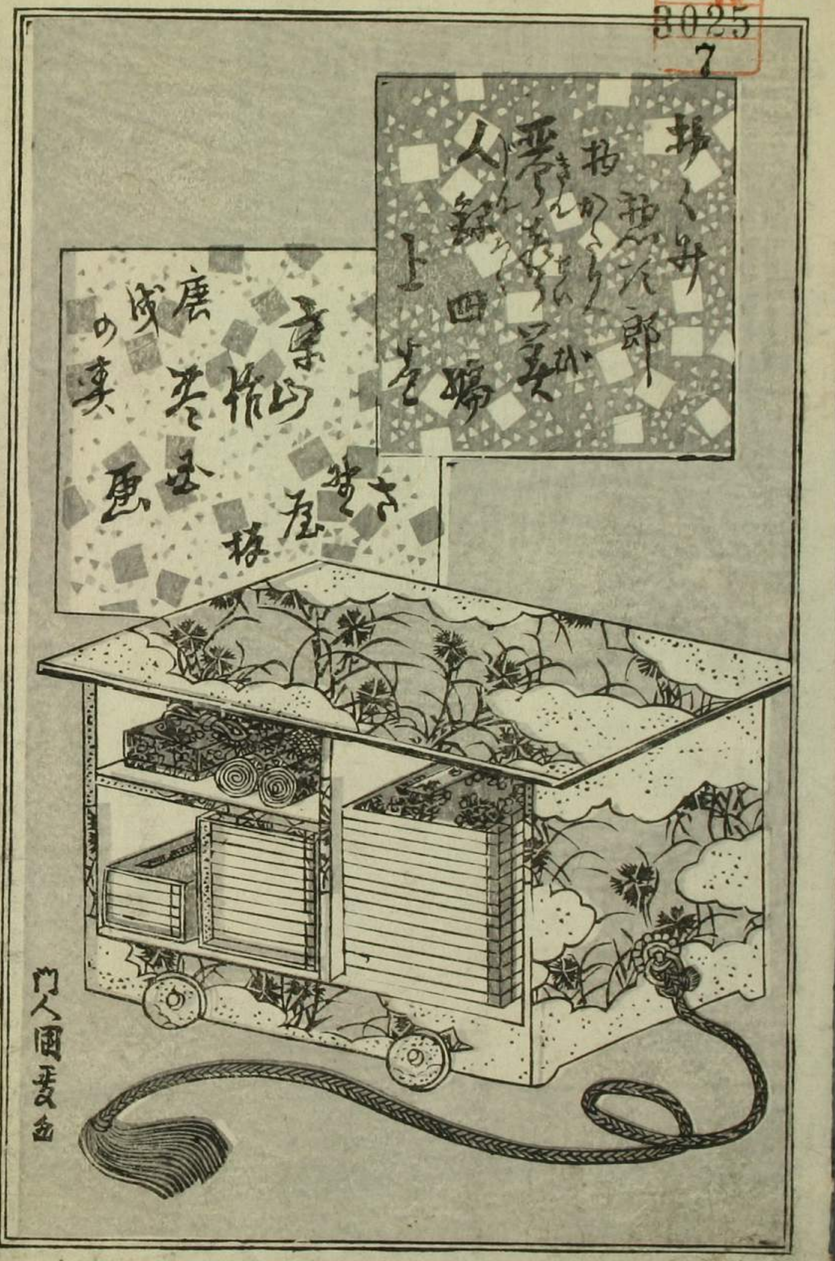
きん吉 四代
琴声美人録 上
康成寿 校 下
京山作
豊國画

へ13
3025
7

へ13
3025
8

琴声美人録 四編 上
豊国画
へ13
3025
7

特
へ13
3025
7



おのもとつかこと氏書物ふりうそさまそ抜きこ葉ものいとそもなく朝ハ
軒の荏とくもふ着紙揉夜ハこの火のまを案をそうるまをするを
妻子らが國ふさ杜つくえの方ゆそ法とめそ葉を耕しふのそそ
日中を書ふりのもをきうふこおりうまんいらくにて一嘗のメベ雲氏
机の壮所ざうもるひのまう紙たぐ玉ベ州さうこの葉ともすて
玉人ふ練ふさめくる夏の蝶まれかくまるまこかきうけくるハとそ
美人録のこ笹前をあえめとらがあうぐいるあ一回名次の葉
いそ一ビとのひけまべまバとう今年ハとそせちふとひけるとふる船の
いるこがうそ硯の海ふ葉の掃をこをそまくさうるきまをさ
みの四角んをあんかきなぐ

嘉永巳酉　十月稿本同晩冬上浣
庚戌之春新板とも

八十一葉
山東菴京山

琴声美人録四篇上巻
初編●三へんよりつゞきの
つま
おかね

らうにん
石べ金大夫
せがれ
金の丞
来福

金の巫

(一)

(二)

(三)

(四)

二階

(五)

(六)

又その [illegible]
[illegible]
「[illegible]それハ「だうぞ[illegible]
とこいつ[illegible]その
それハ金の丞もたち[illegible]
[illegible]
[illegible]下の
[illegible]ども[illegible]
[illegible]百両の内三千両
[illegible]
[illegible]千両[illegible]の人
[illegible]
[illegible]入用[illegible]
と金太夫が[illegible]の入用[illegible]
[illegible]けれバ
金太夫[illegible]
[illegible]けり

その二

●金太夫さまハ「この やせがれ[illegible]
[illegible]百
[illegible]用[illegible]
[illegible]
とも今[illegible]の[illegible]
[illegible]金太夫さまが
むすめ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の金子[illegible]
三千両[illegible]
下[illegible]立[illegible]
[illegible]入れて[illegible]
[illegible]

三段

金の丞ハ[illegible]十九
[illegible]ども[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible]の市の日
[illegible]

金の采

女房かしら

女房ことば

（一）
今太
（二）
金の出
（三）

（一）
「りこがそばさわがしくどざりまする。今のあれがせめてもの楽。又今までのくわと。ゆそやらくと。今見ぐるしや。ゆうさま見うけさらさらゆいくとヤスやうたりやこうやのかまわぬこうやさうぢやないかられなせ。
●「今のおこうかわと。
●「ハテ。「ヨ。ものわすれやうの「ヨくとひっくり今のおさうとうかわれてかくしまわりてあそこもかくもやすさうせやさうぢやないかとおこうさまとおっしゃれば女房なさんまあ子どもやかけ合ひくらさらうよ。

（二）
「それひくさう太のおれよりまあかうさらさらのおくやうたりそのまくとうたりきょうたりさくりうくでやうくさく日うくわうのおこうさまおくうもな。

（三）
●今の出所はこれ

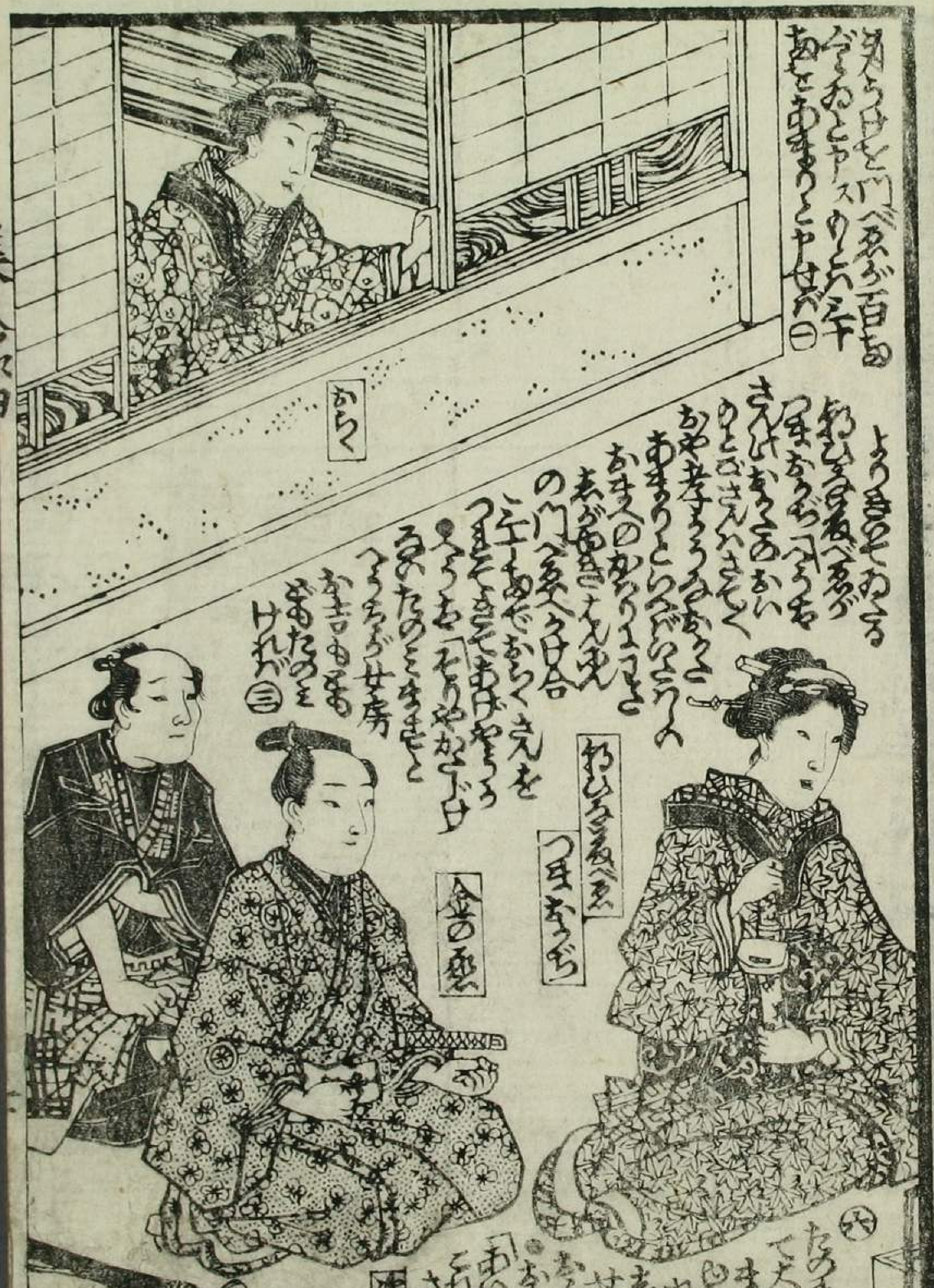
（一）
今太
（二）
金の出
（三）

（一）
二人へもこづんへものでたらめうぐやのまうらべるひやう太うそ人ホあらうろ男けやうごよう風ゆそひたごみわうる天くうろきやうだいぶのおひうるぐあづま水かごのおうやうとそ鬼の女房ふきづんとそあ水のやうろやうろうどもふまあごくことたそうろくせさつへ様へう太がひやうきのだまひすきさうけまひへう太がつまおさらちまうのひかろたいつもあすそばそれもちくのてんやおへう大へあっりのうどんをへうろとこなのおかぢ子やそれをへんじゃるへうのまあごくとうちこらまをやきさうりが（一）

（二）
そんなおちょぼ入ってあくうのをやきたまりかりまうあ

（三）
さそくざねんあごくとたうりくの太こうふをうにくさんの女ぼうだのおれひる多女房ろふるまりまれあんアよう子のまとられてもらひる（次へ）

ぐ今大のそうのかりうち



おらく
金吾

女房おきん

五段目

それにさそあたらかんべら
門へ出入ひるめしを
あるきうり用あつて
立らでんとあけれが
女房おさん「サア
かけさせさせむう
いのかけあし
あれうこにを
きく人でも
たのんでくる
さらうもの
あらくを
こうこうや
のおろめさんが
ちろうとでも
てかうさんでも
あらくへうのくに

(三)女房「とゝ
さんどめて
とそこへ
さうぞんへ
あらくが
ゆるらんと
きつてそらび
れとうべかうぢ
「ヤおろさんあでるがやしたのかうこと今
ハ出らうゆえそれゆえかうこと
あやごゞ八用のゆあつてこ午
あのかゞふつまりおも
めどのあらく
さんざ名を
うゝへ
あき
午面の
かゞ

きおめくのうまくうけ
合ごうそうまごうしあ
いる女中衆のちゝ公人
のうえけやそうろうても
ゐんやつねうこうさうと
そんるうこうさうと
ゐてやかどでのそがそう
おろぢ金のあるとも
るゐうでゆうろうの
八あうとともわれて
門へまくうさう
ゴとうくいさとも
あるわるうえ
ぐあゞ女房かゝ
とのゐまそて
めそあちごきゐ
きあのしまるしよ
たるでもさげてる
えごうれどんだろ
と水ゐれうけ三百足
ゐゝとも水ゐれもろで
おゐてうるゐべいへあい
ゐとまてうるわいるご(二)

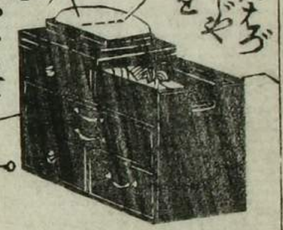
(四)

作者の名 竹本のぶへ大のぶ せんくさん

(三)ここあげのらうそくのこまり ぜんそうやとぎまをく をもひく ぶそのめん くらくらぐらくーけれんがそぶく

(四)へくの内こうもへたゞ 内うこのあかりさんがあそ きけがつへるゞちうとて ぜんこなたへ入さう ぐんかあとのゝ三千 あかせとたのむぬえ かりもうことあらぬが ●おかぜおらくこのい ぢえうにしてあつ 「おらくいてゐト二ツ のまゑうに」ひっきけり ●おかぜ「おらくとこゝに よろうらびあろ」「これ門 へあるのひまわりてー ゞれてありるらぐんかあろ まのなゝ」「なやまりまも 三千あいだうさろーやうる「あれさ るさこさうやうしひ子とあそふ おかうのかりぬーいひおらくさんとあさんへ ろのこうぐかぬーのこうやのあよ いうこーごるぞこさんあいつうろあう へんもぞよそわぐうる今のあさんあと こうとちゃーんそのかてあうぬとあるぞ ろうとくのんまたうつもんとーくも

次へ



㊂子ダのあいだでもにうりまもにうりがおそく二百あまりそだてられたそうさ
あひろひをされたそうさ
くりひろげよう上るふ
金の数さえあればぢきに
あるえかそでめそ
と九日の百あ
まれ下されさ
れてくろう
あるそうだどへう大ぶんびまう
きうゆやうや
ゆそのびくへ
ゆ方ろうさま
さそこまで
あるそうがもひ
ろひをされさ
さいふ
うちゆい
金子
三千あ
なむろう
のおとの

六脈

かくてくうをきらくとせんさうのうちことしもはや
数二うくうちゆやけるこさそおとうさのびまうきゆそあとくこ百あ

かくこれのあるせうこひ百あ数
きまでできけが百あ数
生肉金ちやそうのなすめ身ひとうのそこ千あ
たくるにこのでく千万今くらまうひらひ
せびえすあやうまでせう●えう大ぶんそれゆあくび
北あやそうへこのく百あたでやとくことあり人
えすあいもくもあひまやあこのうさまちまえ
地めんも七八ケ所くうもあう人の次男内ふ
あくこびえすあうえでもあうまのあたそ
あまやのなすあうこをつれてかけあう
あやこのあんどうもらまざ
うまかあくらひーが
せうこーえのなうひの九尺はにの
ぢうきえんざの
今のえ月で五十あいの
大人今れ月あやんまでえんそうう
せうらくうえ月をうくこさいのえれて
せうとあうくさいのえれて
今ちまのくえのちあさこは金
ちまも今の数もやどれをうまも
つまのおうれひをあうくも数二う
いんまうぎ●母ねうさぎちう
かう五人のこさうへいう太ぶ

なうけうされて
ぐさられませと
あふぎふのせそ
さーのこさせ
●なうれこれ
いあうひもの
ようあこと
おのうひ
ヤスさぶ
ぐうの
可のや
えれかと
やうろ
かへーう
ものぐえ
金ちまぐうま

かそ
おやのーえ
うけざうのあ
すんうこうあ数二う
三十あを
もちうり取

京山作
豊國画
琴声美人録
四篇上巻終

東海道五拾三次續繪
奉書四ツ切 廣重画
極上摺多色摺入る
進物に屏風おこし屋

東海道
拙斎画 女絵入風景五十三次繪
大奉書四ツ切
清絵入多色摺

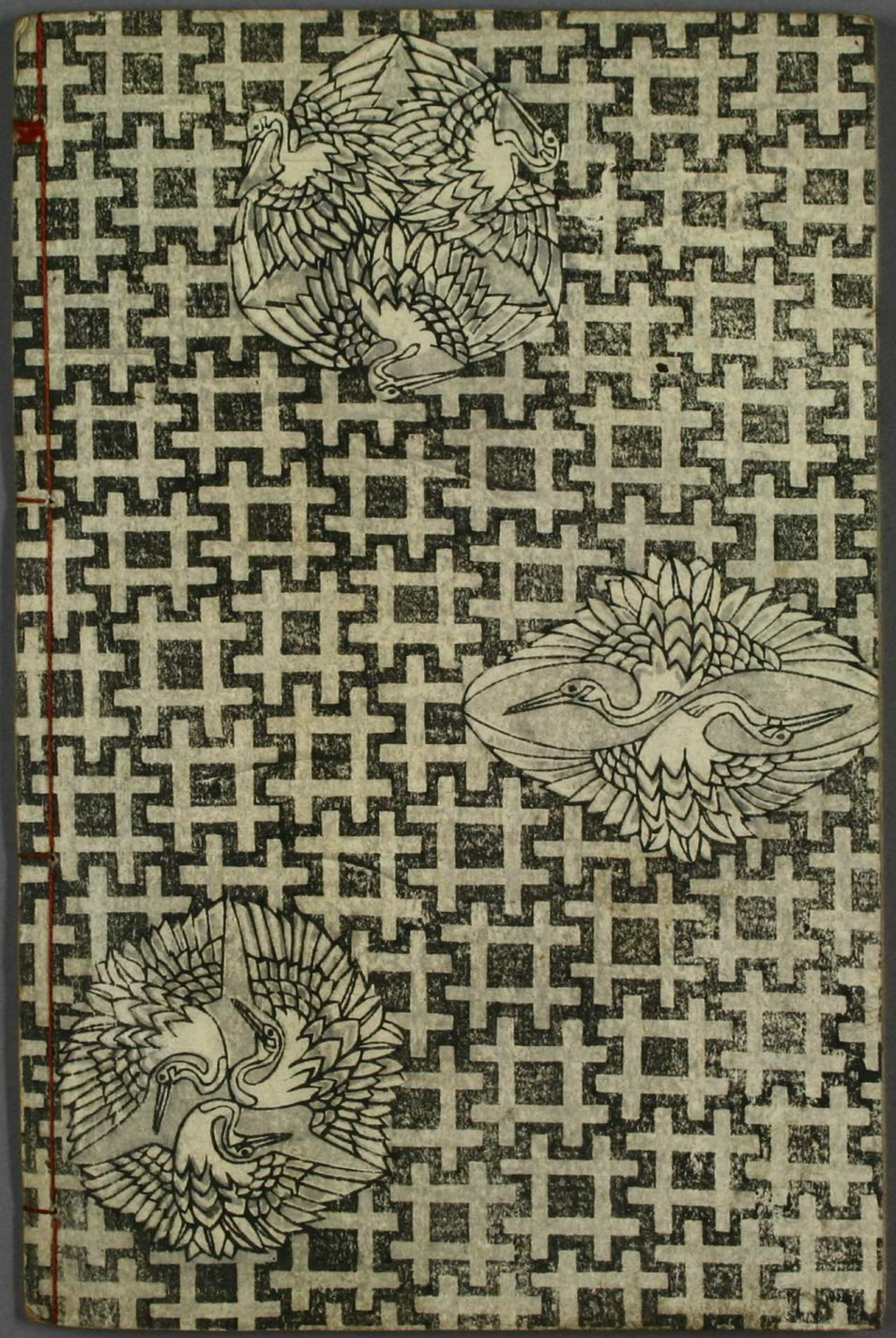
百人一首
講釋入 大錦繪風流女画
一陽齋豊國画
全出来揃

江戸圖扇類御誂物
別紙
一念入仕上直ニ
奉差上

風流繪半切
東千代紙
右市進物ニ箱入洗ニ通仕下直ニ
差上

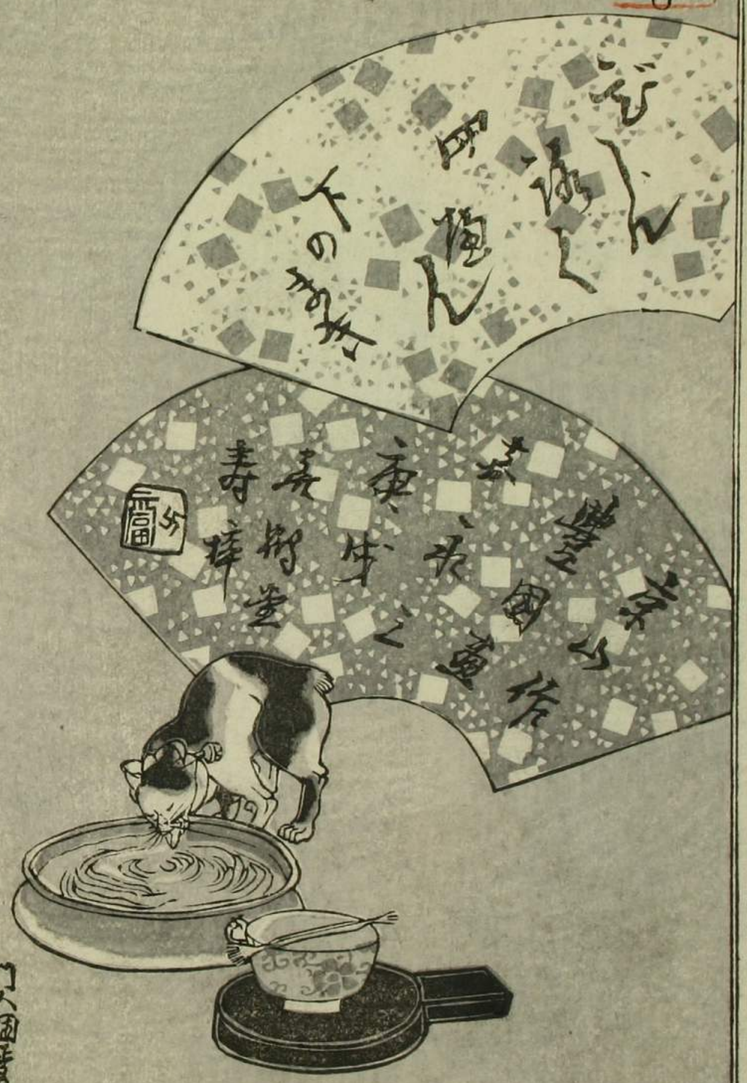
新製数寄屋物
澤山ニ出来仕
のぞき
鏡火五龍圖

東都錦繪
團扇本類
卸店
東都芝神明前三島町角
佐野屋喜兵衛板



へ13
3025
8

特
へ13
3025
8



玉喉美人録四笛篇下巻

江戸京なり銀ざ二丁目
京橋こせのにょくらう
りのあそおりろくもろえ
ともるろくよむもめんぐろう
よ世がいくまだのふ
さろく松えたちめ
茶かろうえ松ろう
人もよ日の仕ろ
とものひろえい百も
まあちろまでこれ
ゆ年のんとなりめ
ろうまろう●こてまよ九一つま
一万ストオ一まこんのろ茶ゐ松ろをろくま
おゆたいろうあろる内二てろうかろうぐなそのの
きろうとろるろそくごのかろうのうありたぐ
らぢ松べー●水ゆあさろ也●私かごゆえ
▲女そろみろ茶男大ろ茶懐妊丹ろ
神りやく一文五女すまこ二ろストオ女い五十い上
ろうとも月やくろる内いそろむろ廿合男いぢん
せのつきゆはさる用ひそまろべー▲十ろ
一代表百こ十二せん●オ一ろろを白じさめ
●ぢ松ゆの中とろくまろえべあろるの妙ろり●切きぢ●あものやけ●ゆきび●そばろま(一)

▲又十六せん屋もんげき
きそうくうてき▲ろ
ろの白牡丹山上
大極上くさの
ろ百九匁百九匁
右のごとくうりひろめんどろ
ほまちのそもも応用
ぐく候くせいそうらよく
ねん金中のろ・おろくぎ九月
なり候上

本文之儘

(二)・おふくろく
とくおのんち
ぬん一疋らく地一反・おらくとて
ちろんどもお茶とてもちまとそのまうをも
ざくふとられ梅松をのみくる一反

(一)

(一)
(二)
(三)
(四)
その二
金太夫むすめ
あらく

その二

㊀初へんふ
ゝゝそうる恵
二てうぶ氏神
かゝまのび
ひうり公もの
大やうのそ氏
子のえひを
ひの内恵二てう
せごんを
むまひつけ
ゑむしが
恵二てうぶ
まるうまる
ろの内より
母うそ
みてゐて㊁

㊂つゞきまりとなりけれがあらく
たゝのく礼とうぎく
のべかゝのうまもの
ゐをもろうろけうぶ
恵二てうろうきき
ゆえたゞあめの
やまをのゝまちけり

そのこと

あらくん恵二てうくんふくありひと
ぐけれどもまゝ男ふう
ゐたりのとうあやのゆうぐれ
ゐとかりのいろうぶりをとゝ
いさゝかうろぎてうぶんうれ
きしとそひにかれのもちのおもと
今かれんきありのひあぐもさえん
せがれんきありのおとうのもち
ひさんとおうろうさゝまゝ
れえんせうろうぼけるのあやもとゝ
小ふうろうまゝうろうさ一なかゝ
そぐされおかゝまゝんとうゝとうも
ひうとうさゝまゝのきのうまかゝく
ひうまやりの大かゝうまかゝあうと

ぶつゝゝふうをを
やふうせゝをまぶ
えんのむすびちぶ
をうるあんぐうろ
まそやうぐうろ
ゆうのとまあん
まうまる

㊃きうけ
あちのこうぶ
ゐをつぶそ
ちやうんを
ゝへつけても
ひうろぎきうけ
とむりふのまを
ゐをうゝまをるも
きぐうろまがせん
うろうろくやうろゝ
みゝへゝよを
「あうろうぶのく
「あのとやうく目と
ひうろきけり㊂

恵二てうふあうとうぶをつ
まあうふうをを
うんとのつけゝ
そうをを
恵二てうだき
まうめかうまふ
ぐりだとかを
入ゐの㊀

㊀あくらんせんもちやくちやうむすこ●あくらくがてゝあや金をまかひ日のあさきさえのみつきのとの
あもあん星の井ひとみ
かうう加田井ひとみ
やーきのいーやのまち
たゝーてみる松竹梅
あんち分やたゞめん
せんとまわられもと
みふたのめんゑーけふ
きさえんのねがも
ちぐふ
あやくへけれが用立
きたる今宵
かあべ
あきたる
あてゝあるかやう
そのみうかやう
さうづのみどう
らんもあさそ
おらくんらまぐ
えんもるえんぐ
けれがやどう
よーのこと
きそそーとも

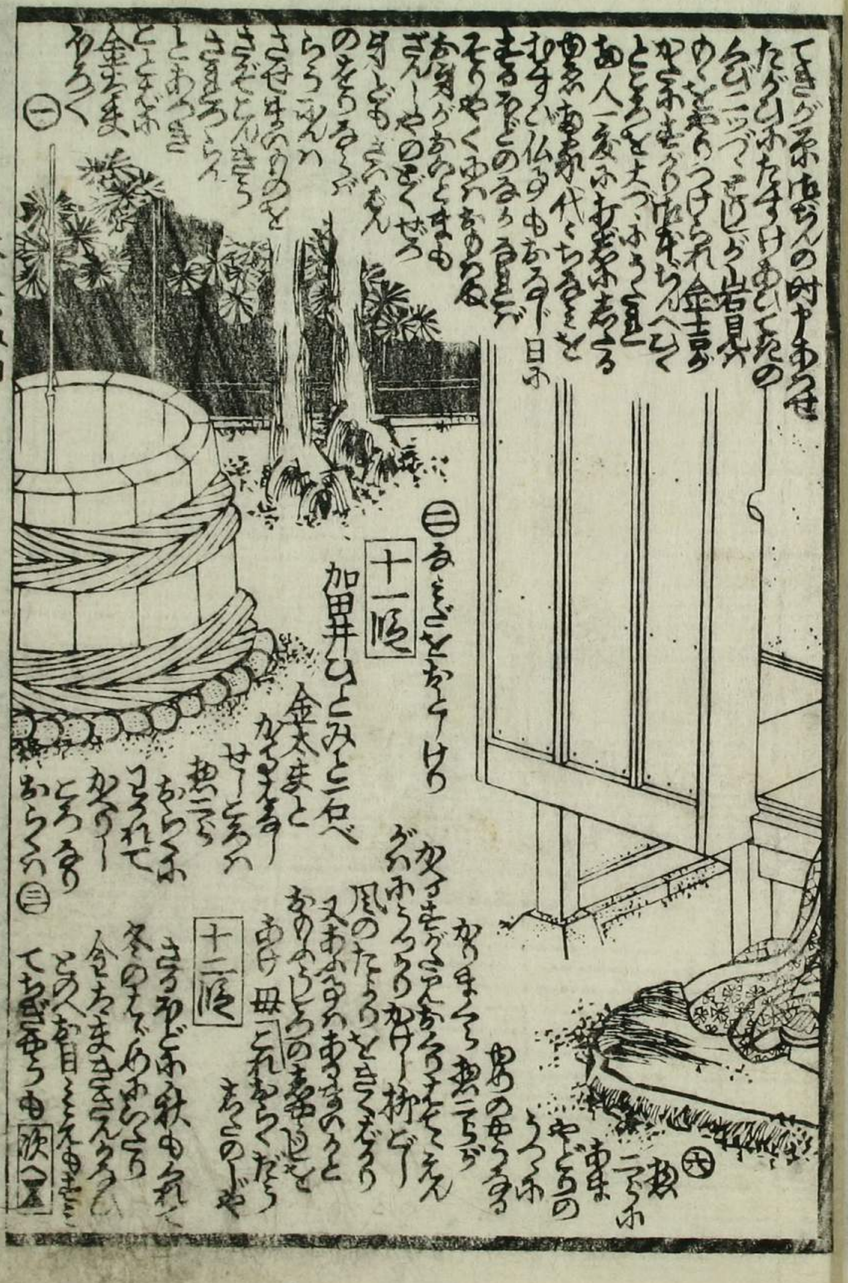
㊁うんのえんぐんのむすこうも●金大夫
「それがあり
ぐふごぞう
ますさう
すよくらうぶく
女なれがらがれ
よめかつくも
むすめかな
あくうとたけ
ぐんあゑーきん
●まつとみ「うさまへ
らやうぐまるのが

むくひふぐさんかんぐうあり
まだ金あちの次男うまれをいとを
まそ名付がとあちくまをあり
ものあるくかやうかあそうか
これまる
日星あ
乳が
ぐうあ
これでも
ちやの
んかくまる
まずこの
んをぶつまれ
ざれがかんだら
あうさうくとう
あうべーかんぐう
うけーいすこ
そとうくまち
うひさちやのあんぎ
をりすうへうぐを㊀

廿二文うらべさーの
やどもう
きえんの㊁

えんだんもそこそこにおろくはきものもあらためもんそんふところへかごしけるうどんどすすのさきあるみがさきえをそろのもあろくこもりみがせんぞ石べ金吉あと

(四)ひとみうなづきぬ山まそさぶつまとうるみとのありしもよろびえんどめそこのもられざら(五)



てきぐ茶ばちんの叶ありたぐりふたすけあとてたのたぐ二つづ山岩見やうをそろうつはられ金吉ありかふもそろうなへとろくを大づふろくあ人一夜のもあるゆふもあるすく仏ありもあるすべ日ふまるそどのるろうどんぐそりやくふいちのろるざえーやのぐぜろすどもさいちんのそろるぐらうふんいさせまのりのをさぞどんきろさまろうえとあるきとそぶ金吉ありろく(一)

(二)るそどをおうけり

十一版

加田井ひとみと二石べ金太まとかるまるサーとろんあらくふこられでかのりーところありくの(三)

かりまそろうさとあろうまそてえんぐふろうりかけー柳ぐ凡のたろうとさてなりヌおふのあるまのりとありのふしとうのまあじ田これあらくだうあろのりぐや

十二版

さうねどふ秋もれて冬のそでめふりう金あまさきろうとうの人を目ここえもまさてちぐまろうも(六)

あらく

星の井名月

まて〳〵あしとようそひろき〳〵ふねとうそをめさ
そをめさ二女中
たらあいあやそうをろげるいをろくさまれさ
のうろうろ
わろのうちまれ
あるまうし
たまあうの
ふんとや
のうち
きりしめ
ひろうまへ
たまけこる
うえあやが
あるまうろ
ひろうを
つけて
きうそのこうざん
次へ

せがれがうせをたの
まろ
●あらもこうやせよや
とあみ
ろう
ともふ
あるまろ
さうやきの
ろうやみ
さまうまを
さうやたま
こうやたま
うろうろ
さんもうを
あくみ
たうせれ
●あこうろ
てんごとよ
のしつ（一）

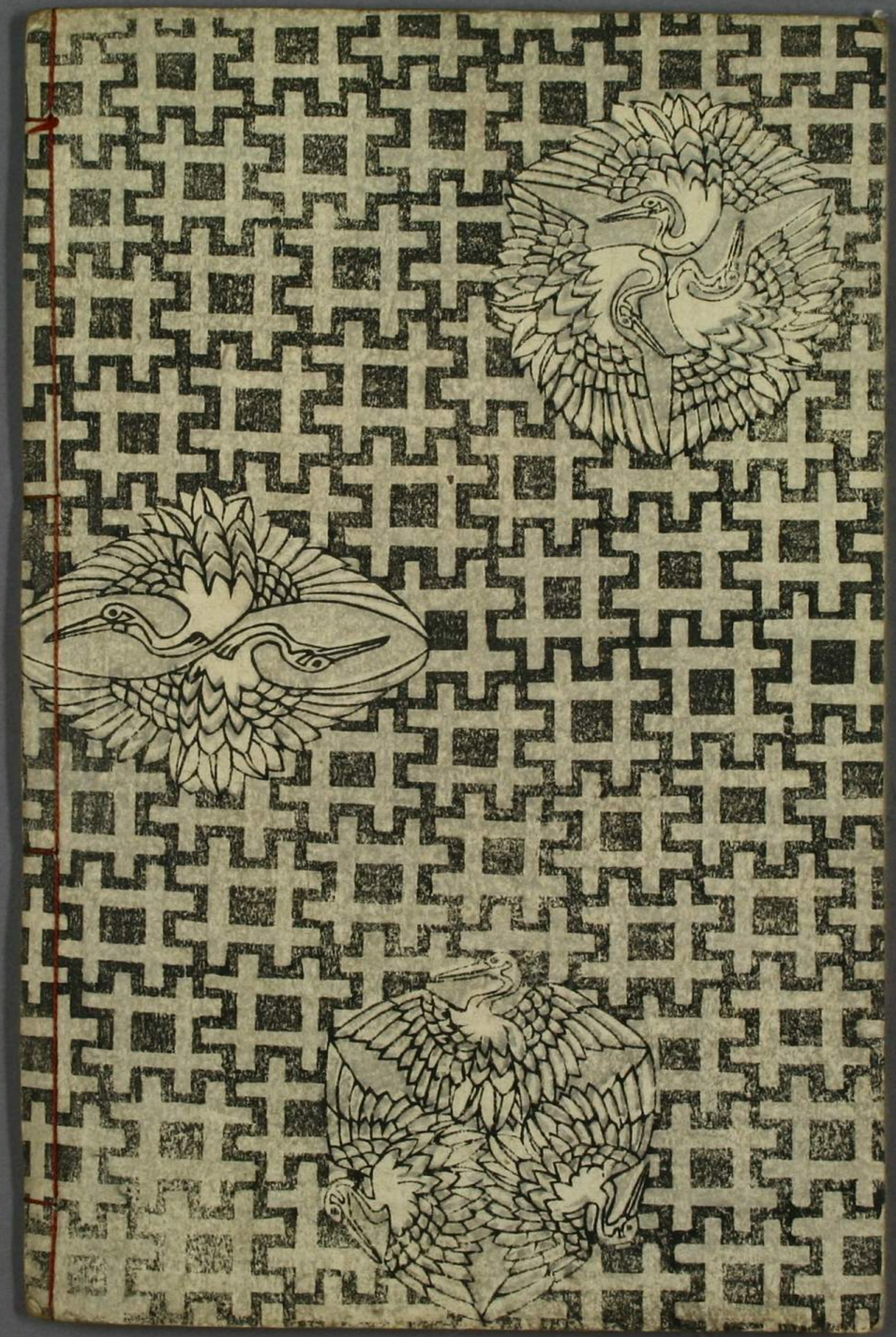
（二）ゆまこうろあびと
あうこうやうくふ
こうそうごそたぶえ
あ●あけ「あ
まうあびとまあて
ろ「ろうさうえまうも
ろうのだらう
のうやうのやを
ろうまろあ
そとあやうを
ふうりがのごれあげ
ろうまうろうまふ
ろうひけまごに
さうまうろうろう
かこむけーごとく
ごれくと水をまた
うんとひとうあ
●ぶく七おらくが
みふわよせ「こやや
女中さごつのろう
●のうあたごうろうち
あげてあれさえやのくち
とようそれておらくん

嘉永三庚戌歳新鐫目録

絵圖見西行(ゑごゝさいぎやう) 十編 十一編 山東庵京山作 一陽斎豊國画	阿組総郎琴声美人録(おくみそうらうきんせいびじんろく) 四編 五編 山東菴京山作 一陽斎豊國画	教訓乳母草紙(きやうくんめのとざうし) 七編 八編 山東菴京山作 一陽斎豊國画	妹背七ツ組入子枕(いもせのなゝつくみいれこまくら) 初編 二編 笠亭仙果作 一勇斎國芳画
関太郎鈴鹿故語(せきのたろうすゞかのふること) 初編 二編 楽亭西馬作 一雄斎國輝画	前太平記四天王権輿 四編 五編 楽亭西馬作 一雄斎國輝画	破軍太郎七星奇談 初編 二編 柳下亭種員作 香蝶楼豊國画	東都芝神明前三島町角 喜鶴堂 佐野屋喜兵衛板

これけれど書ねばならぬとの [illegible]

京山作 豊國画

美人録四へん下をはり

▲[illegible]五へん[illegible] ひきつゞき出板仕り